

札幌皮膚病理研究所 NEWS



2005年3月号

◆ 日程変更のお知らせ ◆

先月号でお知らせした日程から一部変更となりました

皮膚病理指導医養成講座（開催地：札幌）

研修医を指導するために必要な皮膚病理学

・第一部 炎症性皮膚疾患

日時 2005年9月3日（土）・4日（日）

・第二部 非炎症性皮膚疾患

日時 2005年11月26日（土）・27日（日）

皮膚外科手術のための皮膚腫瘍病理学講座

手術切除されることの多い良性と悪性の皮膚腫瘍の病理組織所見を中心に解説し、手術方法や切除範囲を考えるための情報を提供します

東京会場 日時 2005年7月30日（土）

場所 東日本医科大学4号館4階大講堂

大阪会場 日時 2005年12月17日（土）

場所 大阪市立大学 大講義棟

第13回札幌皮膚病理セミナー（開催地：札幌）

世界の皮膚病理学と皮膚病理医

日時 2005年12月9日（金）特別講演

10日・11日（土・日）セミナー

場所 北海道大学医学部臨床大講堂

講師 Geoffrey Gottlieb, M.D.

(Ackerman Academy of Dermatopathology)

今後のスケジュール

2005,2,24

症例検討会：旭川医科大学皮膚科カンファレンス

場所：旭川医科大学皮膚科

2005,3,12

講演：日本皮膚科学会秋田地方会

秋田県皮膚科談話会講演会

『Squamous cell carcinoma:有棘細胞癌

—病理組織像からの分析』

場所：ホテルメトロポリタン秋田

2005,3,17

勉強会：皮膚を見る会

場所：札幌皮膚病理研究所

2005,4,2

講演：第5回京滋難治性皮膚疾患研究会

場所：ウエスティン都ホテル京都

～各種お申込・お問い合わせは当研究所まで～

札幌皮膚病理研究所

〒001-0018

札幌市北区北18条西3丁目2-21

TEL 011-756-4810 FAX 011-756-4842

E-mail office@sapporo-dermpath.com

Website www.sapporo-dermpath.com

今月の症例



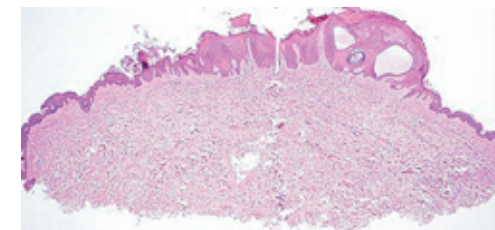
Hidroacanthoma simplex

41才、男性

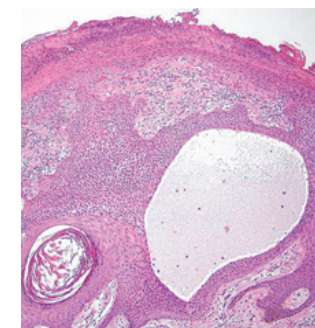
生検部位：大腿、左

臨床診断：Seb. keratosis

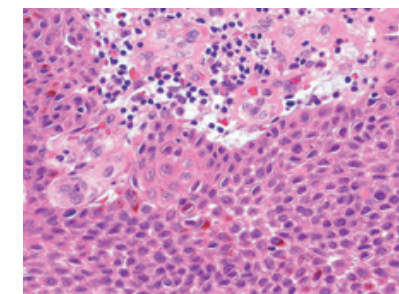
病理診断：Hidroacanthoma simplex



表皮の肥厚と hyperkeratosis が認められ、表皮内に限局した隆起性病変が形成されている。



病変では周囲の角化細胞よりも小さく・クロマチンの豊富な核を有する細胞が巣状に増殖している。一部では空隙が形成されているが、周囲に cuticular cell の lining がないため、壊死によって生じた cystic space と考える。



病変を構成する細胞は2種類で、

1) クロマチンの豊富で小類円形の核を有する poroid cell (図下部)

2) 好酸性の細胞質を有し、管腔を形成する cuticular cell (図上部)
また間質では血管や膠原線維、炎症性細胞浸潤が見られる。

What's new?

第2回臨床皮膚病理研究会

～皮膚病理の常識と非常識～

- 1) Bowen's disease : Bowen病
- 2) Psoriasis vulgaris : 尋常性乾癬

2月4日(金) 東京全日空ホテルにて



皮膚病理指導医養成講座 6回目

2月5日(金) 山王病院山王ホールにて



今月の研修生をご紹介致します

山口 隆広先生(福岡大学医学部皮膚科) 後列左



皮膚病理コンサルテーションシステム

第四弾 ～病理報告書の信頼性(診断精度)～

依頼者が当施設の病理報告書の信頼性(診断精度)を評価するのは難しい。皮膚病理専門医制度がない現段階では、依頼者は当施設の「専門性の高さ」や、「利用した経験者からの評判」を根拠にして信頼性(診断精度)を判断していると推測している。

私たちは病理報告書の信頼性(診断精度)を高めるため次のような取り組みをしている。

(1) 病理報告書を充実させる

病理報告書に病理診断の根拠となる基本所見、特定の疾患の可能性を示唆する手がかりとなる所見、そして病理診断の鑑別点となる所見、を記載する。病理診断の再現性と論理性を高めるのが目的である。また、病理写真を添付することで依頼者がわれわれの診断を検証できるようにしている。

(2) 病理診断と報告書作成をダブルチェックする

複数の医師で標本を検鏡、検討することで所見の見落としと所見解釈の間違いや、報告書の誤字脱字を防ぐのが目的である。

(3) 医師が医学学会や講演会に参加し研修する

皮膚病理分野の情報を入手するために数多く参加している。とくに皮膚病理組織学会の病理診断検討会、皮膚科学会の clinicopathological conferenceや、年1回開催される American Society of Dermatopathologyの学術大会の self assessment courseで診断能力を自己評価している。

(4) 医学雑誌を購読する

皮膚病理に関する専門の雑誌としてはCutaneous Pathology、The American Journal of Dermatopathologyそしてインターネット雑誌でDermatopathology, Practical & Conceptualがある。皮膚病理分野の進歩に後れないよう努力している。

(5) 学術論文を発表する

私たちの病理診断の根拠と妥当性を検証してもらう目的で皮膚病理特に皮膚病理診断に関する論文を発表している。

(6) サードオピニオンを利用する

自分の診断に自信が持てない場合に必要手段である。

病理と臨床 Vol22 No11

「皮膚病理コンサルテーションシステム」より抜粋

新たに論文が掲載されました

Naohito Hatta, Takashi Hirano, Tetsunori Kimura, Ken Hashimoto, Darius R. Mehregan, Shinichi Ansai, Kazuhiko Takehara and Minoru Takata
Molecular diagnosis of basal cell carcinoma and other basaloid cell neoplasms of the skin by the quantification of Gli1 transcript levels
Journal of Cutaneous Pathology 32(131-136) 2005

開催セミナーのご案内

皮膚病理講座 基礎編 (開催地: 東京)

専門医に必要な皮膚病理の知識を整理する
専門医試験に対応

昨年より大幅に改訂し、簡潔でわかりやすくなりました

日時 2005年5月28日(土) 10時～17時
29日(日) 9時～16時

場所 日本医科大学 千駄木キャンパス4号館4階大講堂

定員 100名

参加費 32,000円(早期申込割引; 28,800円)

目的 皮膚科あるいは病理科専門医になるために必要な皮膚の組織学と各種疾患の病理学の知識を修得する
過去の出題傾向にも対応した皮膚科あるいは病理科専門医試験受験対策をおこなう

方法 スライド映写による講義

専門医試験模擬テストの実施

※テストは自己採点です。その場での回答解説いたします。

対象者 皮膚科と病理の研修医や皮膚病理の基本を勉強したい専門医など

講師 木村 鉄宣(札幌皮膚病理研究所 所長)

安齋 真一(札幌皮膚病理研究所 副所長)

取扱い疾患 炎症性疾患、腫瘍性皮膚疾患、沈着症と変性性疾患

皮膚病理の入門編です。

皮膚病理が苦手、あるいは興味があるがどう勉強していいかわからない方、そして専門医試験前に知識の整理をしたい方のご参加をお待ちしています

皮膚病理講座 応用編 (開催地: 東京)

臨床をみて病理を考え、病理をみて臨床を考える

皮膚病理の常識・非常識

日時 2005年6月18日(土) 10時～17時
19日(日) 9時～16時

場所 興和ホール(東京都中央区日本橋 興和ビル)

定員 100名

参加費 32,000円(早期申込割引; 28,800円)

目的 ・各種皮膚疾患の病理診断法および病理組織像を理解する
・重要な皮膚疾患の疾患概念や分類についても検討する
・病理組織像と臨床像との対応を検討する

方法 ・スライド映写による講義

対象者 ・皮膚科や病理医などで、皮膚病理診断学に関心のある研修医
・皮膚疾患の病理組織像を詳しく把握したい専門医 など

講師 木村 鉄宣(札幌皮膚病理研究所 所長)

安齋 真一(札幌皮膚病理研究所 副所長)

皮膚病理の知識をパワーアップさせたい方

ご参加をお待ちしています。

参加お申し込み受付中です。
ホームページ・E-mail・FAXにて
お申し込みください。

編集担当者: 高野 敦子